

教え方日本一、「チョーク一本で教育改革」

- 第 4 回全国模擬授業大会で考える -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

(1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

(2)開倫塾は、6月6日・日曜日に、栃木県民の日の協賛行事として「第4回全国模擬授業大会」を開催しました。メインテーマは「教え方日本一を目指して」で、「チョーク1本で教育改革を」をキャッチフレーズにしてやらせていただきました。

(3)模擬授業とは、学校の先生・学習塾の先生・予備校の先生方がその日に教える内容を、生徒のいないところで予行演習することを言います。本番の前に受ける試験のことを模擬試験と呼ぶのと同様です。

(4)開倫塾では、その全国大会を毎年1回やらせていただいています。今回の開催場所は白鷗大学足利高等学校で、その校舎をお借りして行いました。

(5)全国の学習塾・予備校・さまざまな学校から先生方が300名近くいらっしゃいました。そのうちの約40名の先生方が科目ごとに出場なさり、教え方を競い合いました。公立学校の先生もいらっしゃいました。栃木県内の私立学校からは作新学院高等学校の先生が4名も出場して下さり、非常に有り難く思いました。

2. 1位になられた方は、千葉県のLAPIS進学教室の塾長である田中宏道先生です。この田中先生の授業はとてすばらしく、本当に楽しかったです。あとで、「どのような考えで毎日授業をしているのか」をお聞きしたところ、「とにかく楽しく教室に来ていただきたい。その楽しさの中から勉強の大切さや、学校・塾で学ぶ内容を理解していただきたい。」ということでした。「とにかく楽しく」というメインテーマ通り、田中先生の授業は本当に楽しく引き付けられました。

3. (1)最後に、愛知県で1万数千名の塾生が学ぶ野田塾という学習塾をやっていらっしゃる小川英範塾長先生から講評をいただきました。

小川先生がとてすばらしいお話をして下さいましたので、少し紹介させていただきます。学習塾の先生も、予備校の先生も、学校の先生も心掛けなくてはならないこと・心掛けたほうがよいことが5つあるそうです。それを「五者」と言い、五者に成り切ることが大切であると、小川先生はおっしゃっています。五者とは、医者、役者、芸者、学者、易者を言います。

- (2) 医者に成り切るとは、教室に入ったら医者になったつもりで「この子は元気だろうか」と一人ひとりの児童・生徒の健康状態を目で確かめながら授業を進めるということです。

役者に成り切るとは、例えば江戸時代について教えるときは、学習者である児童・生徒に江戸時代にいるように思わせる授業をするということです。つまり、教える先生は役者に成り切って、江戸時代にいるような雰囲気醸し出すことが大事になります。

芸者に成り切るとは、次のようにすることです。学習塾などは、学校から帰宅後遅くなってから通う場合が多いので、何か一つくらい楽しみがほしくなります。そこで、先生は芸者になったつもりで楽しい授業をしたほうがよいということです。

学者に成り切るとは、学者のように今日教えることを自分なりにきちんと勉強してわかりやすく教えることが大事であるということです。

易者に成り切るとは、世の中はこれからどうなるのか、未来はどのようになっていくのがよいかなどを児童・生徒たちと一緒に考えられるとよいということです。

- (3) 小川先生の考えは、教育に携わる者、あるいは放送をお聴きの皆様の中で人の前で話をする立場にある方にとっては非常に参考になり、また、勉強になると思います。

- (4) 人の前でお話をするときは、医者のように聴衆の皆さん一人ひとりの健康を気づかい、役者のようにその場にいるように思わせる雰囲気を醸し出し、芸者のように疲れを忘れさせるくらい楽しく話し、学者のように正しい知識を伝達するために事前に十分勉強し、易者のようにこれからの世の中のことを一緒に考えられることが大事であると教えて下さっているからです。

4. おわりに

- (1) 今日、栃木県民の日の協賛行事として開倫塾が主催させていただいた「第4回全国模擬授業大会 - 教えること日本一を目指して -」の様子をお話させていただきました。

- (2) チョーク1本でも教育改革はできるということです。また、教え方の力量が高い先生から教わることも大事だということです。そして、先生という名前のついた方はどのようにしたら上手く教えられるかを工夫することも大切であるということをお考えいただければと思います。